

専任教員の教育・研究業績

| | | | | | | |
|---|---------------------|---|---|-----------|------------|------|
| 所属 スポーツ科学部 | 職名 教授 | 氏名 ウエイン ジュリアン | 大学院における研究 指導担当資格の有無 | 無 | | |
| I 教育活動 | | | | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年月日 (期間) | 概 要 | | | |
| 1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) | | | | | | |
| 英語IA/B | | 2019年4月～現在に至る | 1年次配当、必修、半期。文法的理解度や語彙力の向上を目標として指導を行っている。学習内容を身につけさせるために、その内容に基づいた、自分のことに関する文を書かせている。2019年度後期の授業評価で「全体として、この授業に満足している」の結果が4.3 (学部平均: 4.3) になっている。 | | | |
| 英語演習 | | 2019年4月～現在に至る | 1年次配当、必修、半期。実践的な英語力の向上を目標として指導を行っている。学習量を確実に増やすために、授業時間外にeラーニングを使って予習を課している。また、比較的に低い英語力のある学生がついていけるように、半分英語ネイティブ教員、半分日本人教員と、入れ替え制で授業を行っている。2019年度後期の授業評価で「全体として、この授業に満足している」の結果が、6クラスで、4.3、4.4、4.2、4.5、4.7、4.5 (学部平均: 4.3) になっている。 | | | |
| 海外語学研修 | | 2019年4月～現在に至る (2019年度～2021年度はCOVID-19のため中止) | 2年次配当、選択、集中講義。グローバル人材育成を念頭に、1か月間英語圏の教育機関で語学研修を受ける機会を与えている。有意義な滞在になるように、事前後に指導を行っている。 | | | |
| 文化論 | | 2019年4月～現在に至る | 1年次配当、選択、半期。急速にグローバル化が進む時代に生きる社会人に必要である、文化を客観的に分析する能力の向上を目標として指導を行っている。学習内容を身近に感じさせるために、日本の歴史や文化に関する内容を混ぜ入れるようにしている。2019年度後期の授業評価で「全体として、この授業に満足している」の結果が4.2 (学部平均: 4.3) になっている。 | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | | | | |
| 英語演習用の教材 | | 2019年4月～現在に至る | 取り入れたeラーニングシステムであるALC NetAcademy 2/NEXTの内容に合わせてワークシートを作っている。 | | | |
| 英語IA/B用の教材 | | 2019年4月～現在に至る | 適切な学びのレベルで授業ができるように、他の担当教員と一緒に教科書やワークシートを作っている。 | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | | | | |
| II 研究活動 | | | | | | |
| 著書 (単著) | | | | | | |
| 書名 | 著者 | 総頁数 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 | |
| | | | | | | |
| 著書 (共著・分担執筆) | | | | | | |
| 題目/書名 | 著者/編者 | 初(始)頁～終頁 | 発行所 | 発行地 | 発行年月 | |
| デイビッド・G・マコーム著『スポーツの世界史』訳 | 共訳: 中房敏朗、ウエイン・ジュリアン | 本書全体 (ただし訳者解説を除く) | ミネルヴァ書房 | 京都 | 令和5年4月 | |
| 原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。) | | | | | | |
| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 | |
| | | | | | | |
| 総説 | | | | | | |
| 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 | |
| | | | | | | |
| その他 (「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入) | | | | | | |
| 区分 | 題名 | 著者 | 誌名 | 巻 | 初(始)頁～終頁 | 発行年月 |
| | | | | | | |
| 学会発表 (「国際学会」、「国内学会 (一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等)」、「研究会」等区分を記入) | | | | | | |
| 区分 | 年月 | 学会名 | 演題名 | 場所 | 発表者名 | |
| 国際 | 令和1年9月 | Joint East Asian Studies Conference 2019 | Kanō Jigorō's Dying Wish: A Case Study on the Impact of the 1964 Tokyo Olympics | 英国エジンバラ大学 | ウエイン・ジュリアン | |

| 科学研究費等の取得状況 | | | | | |
|---|---|----------|-----------------|-------------|-------------|
| 科学研究費／その他の助成金／外部資金 | | | | | |
| 区分 | 種類 | 題目 | 代表・分担の別 | 期間 | 助成額（期間内の総額） |
| | | | | | |
| 特許 | | | | | |
| 特許名称 | 発明者／出願人 | 出願日／出願番号 | 公開番号 | 取得した場合 ⇒ | 公告・特許番号 |
| | | | | | |
| Ⅲ 加入学会および社会における活動 | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | |
| 加入学会 | | | | | |
| 平成31年4月～現在に至る | 英国日本学研究協会(BAJS)会員 | | | | |
| 平成31年4月～現在に至る | 日本リメディアル教育学会(JADE)会員 | | | | |
| 平成31年4月～令和4年3月 | 同学会誌『リメディアル教育研究』編集員 | | | | |
| 平成31年4月～現在に至る | 日本体育学会(JSPEHSS)会員 | | | | |
| 社会的活動 | | | | | |
| | | | | | |
| Ⅳ 管理活動 | | | | | |
| 期 間 | 内 容 | | | | |
| 委員会活動 | | | | | |
| 平成31年4月～令和3年3月 | 体育学部国際・地域交流委員会委員長 | | | | |
| 平成31年4月～令和3年3月 | 全学国際・地域交流委員会委員 | | | | |
| 令和3年4月～令和5年3月 | 体育学部入試委員会委員 | | | | |
| 令和5年4月～現在に至る | 体育学部研究委員会委員 | | | | |
| 令和5年4月～現在に至る | 体育学部予算委員会委員 | | | | |
| Ⅴ クラブ活動の指導業績 | | | | | |
| 1. 指導クラブ名 | 日本拳法 | 部 | 2. 役職 | 部長兼コーチ | 3. 部員数 |
| | | | | | 1 人 |
| 4. 現場指導の頻度 | ④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない | | | | |
| 5. 合宿指導 | 年間合宿回数： | 回 | 延べ日数： | 日 | |
| 6. クラブの競技力向上への取り組み | ③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | | | |
| 7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み | ② ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | | | |
| 8. 部員の就職指導への取り組み | ③ ①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない | | | | |
| 9. 年間の引率公式大会名 | 大会名 | 期 間 | 場 所 | | |
| | 西日本学生拳法選手権大会 | 4月 | 大阪市中央体育館 | | |
| | 全国大学選抜選手権大会 | 6～7月 | 東京武道館等 | | |
| | 全日本学生拳法個人選手権大会 | 10～11月 | 名古屋市千種スポーツセンター等 | | |
| | 全日本学生拳法選手権大会 | 11～12月 | 大阪府立体育会館 | | |
| 10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。） | | | | | |
| 開催期間 | 大会名 | 成績 | 場 所 | | |
| 平成31年4月28日 | 第23回西日本学生拳法選手権大会（男子団体戦） | 3位 | 大阪市中央体育館 | | |
| 令和1年12月1日 | 第64回全日本学生拳法選手権大会（男子団体戦） | ベスト8 | 大阪府立体育会館 | | |
| Ⅵ 賞罰（職務に関する賞罰） | | | | | |
| 年 月 | 受賞等機関名 | 内 容 | 備 考 | | |
| | | | | | |